

福王寺だより

今年はコロナ一色で、いつまでなんだろうと思わずにいられない日々が続きます。ワクチン接種もどんどん進み、来年こそはと期待しております。「止まない雨はない」、こんな時代の中でも前を向いて明るく生きていきたいですね。

合掌

死者と霊性

「死者と霊性」という本が興味深く、なるほどなーと思う事が多々あったので少しご紹介です。

中島岳志さんのお話だったと思うのですが、阪神大震災の時に、焼けた家で、ガレキを避けて何かを探すおばあさんがテレビに流れていたそうです。

その時キャスターが、「何を探しているのですか？」と聞くとお婆さんは驚いた顔をして（そんなことも解らないの？的な感じで）、「位牌です」と答えたそうです。

中島さんの意識には、捜し物に位牌という意識は全くなく、大変驚いたそうです。自分な

ら財布、もしくは今だったらスマホ、そういう気持ちしか無かったといっておられました。かくいう私も第一番に位牌と思えるか疑問です。昔のドラマではよく、火事の中に位牌をとりにいくシーンもありました。私が小さい時ですから、三十年前あたりは割と一般的な事でもあったのだと思います。

現代は、合理化の社会で、目に見える必要なものだけが大切に思われてしまいます。「位牌」よりもお金、後からまたお金で買えば良いと効率的に思ってしまう。またそういった事がなんとなく普通のように、思ってしまう自分もいないとは言えません。

火事に位牌を取りに行く人、焼け野原の中でガレキから位牌を探すお婆さん。死者に対する姿勢、そこにその人がいるかのように、死者を大切に思う暮らし、目に見えないものへの姿勢が現代と随分違って来ているように思えます。



1891

お金よりも位牌（死者）、それを当たり前のように思っただけで行動する生き方、そんな人々を思える人生は、ある意味豊かだとも思います。もちろんお金は生活するために欠かせませんが、しかしそれだけの人生は寂しい気がします。

昔はお金が無かったけど、助け合って子供も笑って良い時代だった。そんな風と言う方もいらっしゃると思います。

現在は、人のお世話になりにくい時代です。「人に迷惑はかけられない」、「自分で自分を守らなければならぬ」、「逆に「人と関わらたくない」、「自分の好きにやりたい」など個人主義の世界で、みんな孤独を抱えています。

しかし、本来私達は一人では生きていけません。息することにしてみても、たくさん命の恩恵を受けています。

目に見えないけど、自分だけの命ではない、また死者を思う、目に見えない



家・福王寺

いありがたさを尊ぶ、そんな繋がりあう生き方を改めて、大事だなと感じます。

合理化、便利という甘い汁は、魅力的で気持ちが良いです。どこかで損している人がいるとも知れず。自分自身を振り返って、人を大切に、死者を大切に、「いのち」を大切にこころ豊かに生きられたと思う本でした。

行事のご案内

十一月三日 午前九時

第三回下座行

第三回目の下座行です。先祖様に供養すると同時に心を磨きましよう。

落ち葉の片づけ等行います。是非一度も来られたことがない方も、運動がてらお気軽にご参加下さい。

境内が綺麗になつていく様は、気持ち良いですよ。



十一月十七日

午前十時

報讃会

今年最後の大法会です。網走の管内のご寺院様、布教師様をお招きし、一年の感謝を込めて祈りを捧げます。

理趣三昧という、聞くだけでも罪を滅し、善を増す、密教の大法会を執ります。
是非お参り下さい！



寺院からのお知らせ

展望台

裏山の八十八ヶ所の更に上に、津別町を一望できる展望台を名誉住職が二年かけて作りました。

もともとは畑山実さんの土地を娘さんが寄付され、それを毎日毎日、名誉住職が伐採し、道を作り、花を移植などして整備しました。

この度階段を作り、一段落したようです。階

段も自分で木を切り、皮を剥き、大変な作業よくやるな〜と思います。継続は力なり、少し距離はありますが、綺麗に整備されていますので、是非一度ご登山ください。
お手伝やお心遣い頂いた方、本当にありがとうございます。

